

東舞子

2019/1/31 (2月号)

神戸市立東舞子小学校

平成30年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

助け合う気持ちをもって、人のために動く

校長 古池 茂

24年前の阪神淡路大震災のとき、私は本校の5年生担任として勤めていました。1月17日、連休明けの火曜日早朝、ものすごい地鳴りの音が聞こえた後、突き上げるような揺れ、強い横揺れが15～20秒ほど。その地震の怖さは今でも忘れられません。本校へいち早く駆けつけなければと思いながら、バイクで2号線を走り、やっとの思いで夕方に着きました。

本校は建物の倒壊や火災に遭うことはありませんでしたが、本館2階の絵本の部屋が避難所に。また、北校舎が安全上の理由で立ち入り禁止となり、プールは大きな亀裂が入り使えなくなりました。子供たちは10日間ほど自宅待機を余儀なくされました。登校した時の子供たちは、友達と久しぶりに会えて抱き合って喜ぶ姿がありました。

当時の子供たち(5年生)は、北校舎が使用禁止となったこともあり、現在の4年生校舎の教室に50～60人近くの子供たちが入って学習しました。不便で不自由な学校生活の中、友達と声を掛け合いながら過ごしました。5年生は1月下旬に自然学校が予定されていましたが、それも中止に。そのことを子供たちに運動場で告げた時は、子供たちは「仕方がない」という思いで冷静に受け留めてくれました。その時の様子は鮮明に覚えています。

上記のことは先日の防災の集いで全校児童に話しましたが、併せて災害時に心がけることについても以下のことを伝えました。

①「災害は忘れたころにやってくる」

地震の備えを日ごろからすることが大切。懐中電灯など災害で使用するものを常備しておくこと。災害が起きた時を想定して家族の人と話をすること。

②「進んで自分が動く習慣を身につける」

災害に限らず、大変なことが起きた時、自分の頭で考えて行動することが求められる。今、何をしたらよいか、人のために何ができるかを自分で決めて動くことが大切。

③「人と協力する」

災害など起きた時は、全員が一つになって動く。誰とでも協力できるよう日頃から心がけておく。学校だけでなく地域の方々とも協力する気持ちをもちつながること。

防災の集いで子供たちに阪神淡路大震災について私が思うことを話しましたが、ご家庭でも是非、お子さんといっしょに災害のことについて話し合いをし、災害が起きた時、我が家ではどうしていくかなどを考えてみてほしいと思います。

明日から2月となります。6年生においては、冬季野外活動、卒業式と大きな行事が続きますが、本校職員一同、素敵な東舞子の卒業生を送り出すことができるよう、子供たちを支援していきます。その他の学年の子供たちにおいても、残り2か月、一人一人のよさをもっと引き出し、次の学年にしっかりつなぐことができるよう寄り添っていきたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。